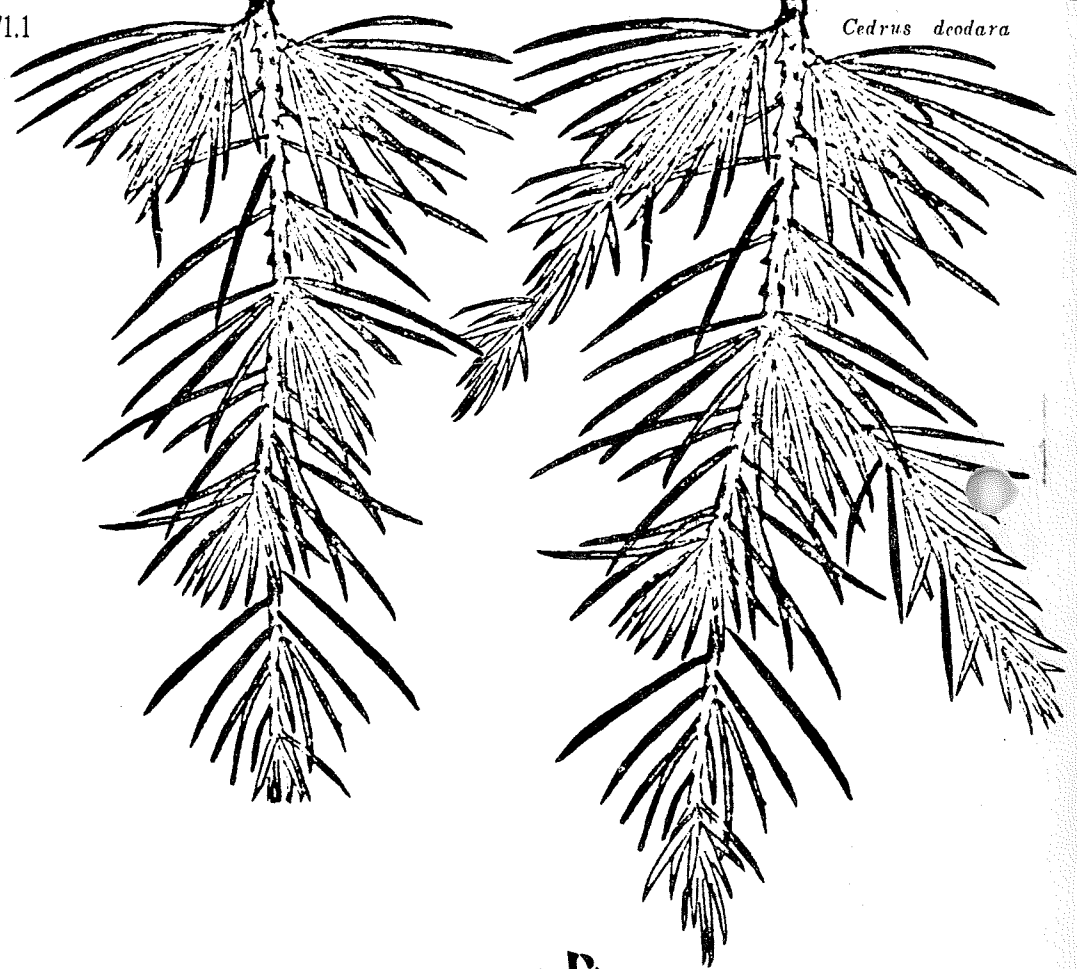
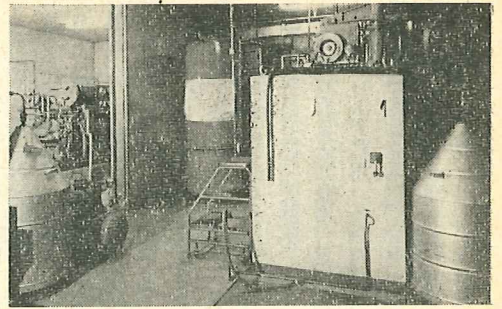




成蹊会誌
33



ヘリウム液化装置（低温実験室）

析装置、分光式自己濃度計、自記蒸気圧式分子量測定装置、熱間ラバープレス装置、大型低温恒温槽、光電検出装置、ミキシングロール、自動記録式X線目折装置、マイクローバイロメーター、流動複屈折測定装置等。

経営工学科は、企業における経営管理の近代化、科学化が急速に進められている現在、その果す役割がますます重要になってまいりました。

将来、機械、電気、化学等の工業において、生産の効率化、品質の向上、コストダウン等の合理化の推進にたずさわる生産管理技術者を養成する生産管理コースと、将来、電子計算機を中心とする数理統計学、オペレーションズリサーチ等の基礎を教育し、計算機の実習により、企業において企画、調査、あるいは計算機の運用にたずさわる数理管理技術者を養成する数理管理コースを設けており、両コースとも、基礎学力と応用を身につけさせるため特に、実験、実習に力を入れております。

経営工学科の主要設備としては次のものがあげられます。

富士通 FACOM230-25 電子計算機システム、HITAC-301B 電子計算機システム、島津自記示差熱分析装置、脳波測定装置、電気計

測器、看視作業実験用シミュレーター、磁気テープ記憶装置、アナログ計算機、作業動作時間加速度測定装置、生体反応ポリグラフ、アイマークレコーダー、脳波計増巾装置および記録装置、工業用テレビジョン装置、アイカメラ、ロジックトレーナー、模型製作設備、適正検査装置、レクチグラフ、ダブルパルス発生器、オフライン万能入出力装置、シンクロスコープ、光電式テープ読取機、選択反応時間測定記録装置、メモモーション装置等。

また、工学部共通の教育、研究設備としては、ヘリウム液化装置（低温実験室設置）、計数型電子計算機システム（電子計算機室設置）ガンマー線照射実験装置（ガンマー線照射実験室設置）、電子顕微鏡（電子顕微鏡室設置）、核磁気共鳴装置（核磁気共鳴室設置）等が主要設備としてあげられます。

最後になりましたが、本学部卒業生の就職状況については、ここ数年、産業界の好況も反映してか、すこぶる順調で、求人数も増加の一途をたどっております。

思えば、工学部最初の卒業生一七二名を社会に送り出した昭和四十一年は、折りから経済界が不況にみまわれ、大企業における求人見合わせ、採用人員の削減等の状況下にありながら、幸いにして百パーセントの完全就職をもってスタートし、以来本工学部も年を重ねるごとに社会に認められるようになり、お陰様で、就職状況は毎年、極めて良好であります。学部開設以来の卒業生総数は、一、〇四八名、うち就職希望者は九五六名で、第一回から第五回まで毎年百パーセントの就職を続けております。これら卒業生の就職先を産業別にみると、電気機器、化学薬品、商社、産業工作機械、サービ

成蹊会報告

昭和四十五年七月一日
昭和四十五年十二月三十一日

○成蹊会誌第三十二号発行（七月三十一日）

発行部数 一〇、〇〇〇部（六十三頁）

○第十二回成蹊会謝恩顕彰会（十月二十九日・成蹊クラブ）

本年度は次の三先生（いづれも満七十才）をお招きして成蹊クラブにおいて開催した。（関連記事四頁参照）

伊藤隆吉先生（成蹊大学名誉教授）

鈴木一郎先生（元、成蹊小学・中学・高校長）

藤浦敏雄先生（元、成蹊中学校教頭）

○高等学校同窓会交歓会（十一月一日・成蹊高校会議室）

成蹊高校の文化祭「こみち祭当日」、高校会議室において交歓会を開いた。（関連記事四七頁参照）

○実務学校同窓会（桃蔭会）総会（十一月五日・成蹊クラブ）

来賓として明星学苑長児玉九十先生が出席された。

○東北支部会（十一月七日・仙台）

○関西支部会（十一月十日・大阪）

○工学部同窓会総会（十一月二十三日・大学工学部）

大学博祭当日大学工学部において総会を開いた。（関連記事四六頁参照）

工学部同窓会

ス、非鉄・金属、車輪・輸送機、ガラス・セメント、電気・ガス・石油・ゴム、精密機器、鉄鋼・金属、食品・醸造、建設工事、繊維紙、パルプ関係の順になっており主な就職先は、旭硝子、いすゞ自動車、石川島播磨重工、岩崎通信機、鹿島建設、キャタピラ三菱、小松製作所、山水電気、シチズン時計、清水建設、神鋼電機、住友スリーエム、大日本塗料、千代田化工建設、東京芝浦電気、東京電力、東洋インキ製造、東洋通信機、東洋電機、日産自動車、日商岩井、日本揮発油、日本光学、日本航空、日本電気、日本電子、日本ビクター、博報堂、日立製作所、富士通、富士通ファコム、本田技研、三菱江戸川化学、三菱化成、三菱金属、三菱原子力工業、三菱自動車販売、三菱樹脂、三菱重工、三菱商事、三菱電機、三菱油化となっております。（第四回までの卒業生三名以上の就職先会社）

以上のように、本学部出身者は、すでに各種産業の一流分野にも就職しておりますが、成蹊学園の伝統である「堅実な人格教育」を背景に、また本学の気風である「明朗にして健康で他との調和性に富んだ社会人」として、必ずや、その成果を上げてくれるものと我々は確信しております。

本工学部も、いよいよ昭和四十七年度をもって創立十周年を迎えますので、皆様方の一層のご指導、ご鞭撻をいただき更に一層の躍進を期する所存であります。（工学部教務課長・布施辰治記）

工学部同窓会は去る十一月二十三日、母校の工学部十二号館四階ホールにおいて開催されました。

本会は今年の三月で千名を越す会員数となり、当日の参会者も御招待申し上げた諸先生多数を含め二百五十名程の方々の出席がありました。

会は折りしも行なわれている樺祭の賑いの中で、予定の三時を五分ほど後れて始まり、初めに同窓会会長松井靖夫氏（機械一回卒）のごあいさつがあり、次に来賓として御出席された学園理事で成蹊の大先輩である猿山昌平氏（日本無線副社長、実務学校九回卒）より成蹊の創立精神などのお話がありました。続いて祖父江先生の乾杯により歓談に入り、現工学部長浅見先生より学部近況などが述べられました。会場では久し振りに会った同輩や恩師との間に歓談の輪がここそこに見られ、終始笑声の絶えない雰囲気の中で行なわれましたが、当初の見込みより出席者の数が遙かに越えた状態のため、会場は相当な混雑を見せ、予定の五時より三十分ほど早く、坂井先生の音頭により万才三唱の後散会しました。

今回より会費制を取りましたが会員の皆様方の御協力により成功致しました。しかし会場が例年通り狭いという難点があり、来年度からの会場選を考えたかと思っております。

また一部に人数も多くなったことなどから学科別に行いたいとの声も聞かれましたが、私見ですが当分は学部全体での会を催すことが望ましいと思っております。

最後に今回の同窓会開催に当り、工学部職員の皆様、並びに成蹊会の谷岡氏にひとかたならぬ御協力を賜わり深く謝意を表します。

会費芳名録

昭和四十五年七月一日
昭和四十五年十一月三十日

終身会費払込者

(終身会費七、五〇〇円)

安部 俊孝	相川 博	青山 義治	荒川 邦彦	伊吹 喬	石川 清	石橋 晃	今村 進	岩下 圭一	小川 美恵子	大槻 賢造	岡田 明義	加治 攻一郎	片岡 浩	川崎 博	児崎 幸多	郷原 則親	佐久間 敏夫	相良 公一	猿丸又左衛門	田中正彦	田中 清風
阿部 正夫	相川 正汎	穴沢 正男	有賀 久雄	池田 光男	石河 誠	井村 一	今村 竹彦	岩松 昌子	小淵 喜勢光	長田 清志	樺山 敦子	川勝 隆久	近藤 素樹	五月女 邦久	佐藤 昭爾	斎藤 榮二	穴戸 正明	田中正	田中 猛	田中 猛	田中 猛

年額会費払込者

(一年分五〇〇円の割)

田原 正文	高取 昌己	玉谷 青史	角田 秀雄	富永 正裕	中賀 陽三郎	羽賀 英男	浜中 幸彦	福島 幸彦	伏屋 千文	間中 陽泰	松崎 慎一	美和 守	村上 和夫	森谷 明雄	山下 克彦	山本 藤三郎	山本 藤三郎	山本 藤三郎	山本 藤三郎	山本 藤三郎	山本 藤三郎	山本 藤三郎
田淵 正昭	滝口 昭彦	登内 賢二	中村 彰宏	西井 治子	羽成 敬彬	平山 敬彬	福田 恭昭	星野 忠昭	真弓 俊剛	三宅 祥男	宮崎 幸彦	守田 幸彦	山口 幸彦	山口 幸彦	山口 幸彦	山口 幸彦	山口 幸彦	山口 幸彦	山口 幸彦	山口 幸彦	山口 幸彦	山口 幸彦
以上八〇名																						

昭和四十五年度～四十六年度
阿部 武 天野 アヤ

尚当日の学科別出席者数は、機械六八名、電気五六名、化学五〇名、経営四六名計二百二十名でした。(工業化学三回卒・石丸泰記)

高等学校同窓会

高等学校(新制)同窓会は会員相互の親睦を深め、会員と高等学校の現役の諸先生、生徒諸君との交流をもちたいとの趣旨の下に、一昨年十月こみち祭当日に第一回の同窓会懇親会を催した(本誌第二九号参照)。その後同窓会委員会はこの様な会合を定期的に開きたいという希望をもち続けていたが、一昨年は成蹊も不幸にして全国的な学園紛争の波にのまれ、懇親会開催の条件が整わなかった。今年も開催の見通しは不明であった。高等学校諸先生の御尽力により、九月に入って「こみち祭当日」に高等学校会議室が会場として確保できる見通しがついたため、成蹊会事務局の御助力をえて急に準備にとりかかり、十一月一日(日曜日)午後二時より、右記会場において第二回懇親会をもつことができた。

出席者は左記の通り。(五十音順、敬称略)。職員に栗原校長、吉崎教頭の他、飯塚玲子、内田信夫、大内一彦、奥住正彦、中島知、船越経三、三浦信一。

卒業生に四回、有馬竜夫(御家族同伴)。五回、池田永良、尾高暉之助(夫妻)、城戸毅、湯浅光陽。六回、桜井晴彦、城戸喜子、吉本健一郎。八回、鈴木一郎。九回、川村尚吾。十回、池田孝夫。十四回、隅出秀之。十五回、中村国夫。十六回、平尾和寿、山内昌彦。十九回、大谷哲夫、村井新太郎、山下恵子、山尾久仁子。

(高校五回卒・城戸毅記)

あとがき

●成蹊会誌第三号を諸兄姉にお届けする。前号の「余白をかりて」で申し上げたとおり、本号も荒木昌保君(政経一回)酒井四平君(政経二回)園田信行君(政経四回)のトリオの助けを借りて編集した。できればはご覧のとおり……。特に荒木君には時にはインタビュアーに、時にはルポライターとして大活躍。三君に厚く御礼申し上げます。

●毎年の催しであるが、恩師謝恩会を昨秋行ない、伊藤隆吉先生、鈴木一郎先生、藤浦敏雄先生のお三人(共に七十才)をお招きした。本号には三先生の玉稿を頂戴したほか、大久保捨蔵先生(八十二才)香取良範先生(七十三才)からも寄稿があった。我々の恩師が益々ご健勝で健筆をふるわれるのは、頼もしい限りである。●この会誌の読者層はハイティーンから古稀まで。どこに重点をおくか迷うところであるが、要は執筆者も成蹊人、読者も成蹊人であるという共通点に焦点を合わせ、本誌を通してこれが母校であり、これが卒業生の姿であることが、お分りいただければ幸いと思う。

(谷岡喜久蔵記)

昭和四十六年二月十五日
編集兼 谷岡喜久蔵
発行人 成蹊会
発行所